



歌川國松畫

岡本起泉終

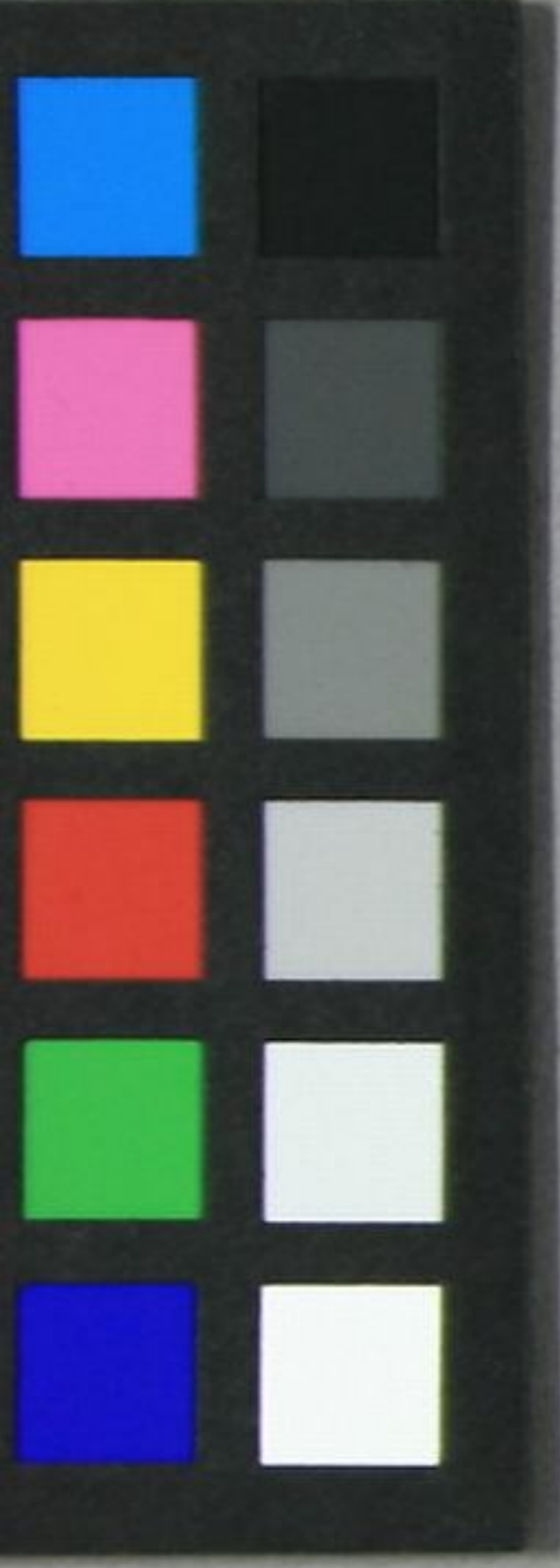
芳川春涛閑

花岡奇縁譚

下之卷

中之卷

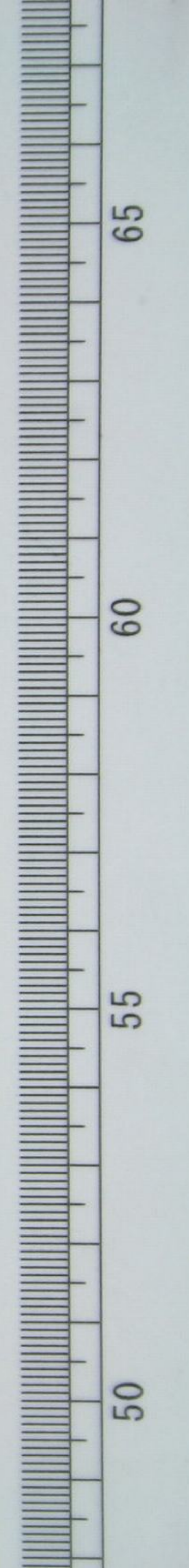
上之卷



芳川春涛園

花岡奇縁譚

上之巻



とうろく ひん
東京子家き

よこしま かを
横濱又蒸る

花園

奇縁譚

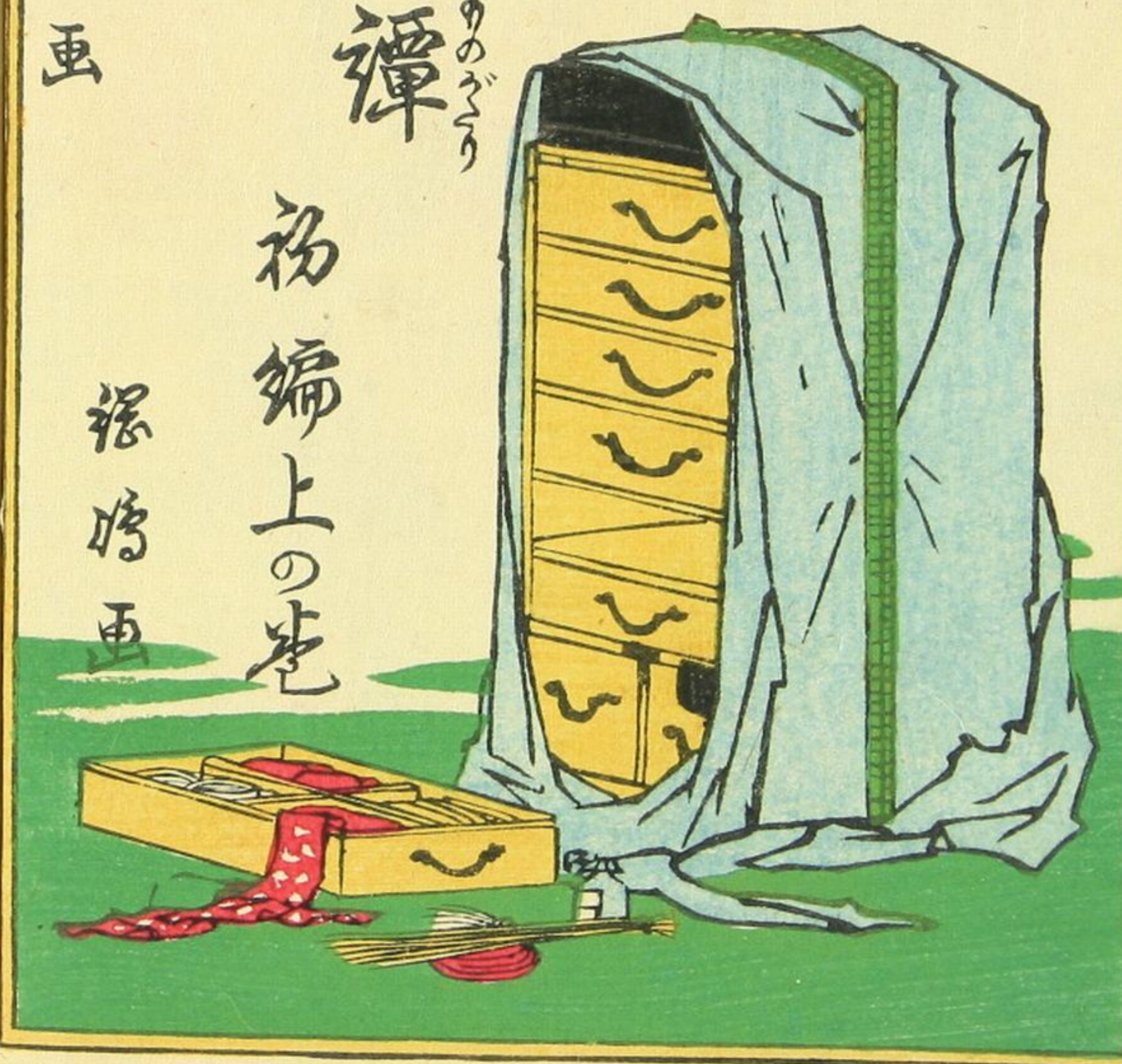
芳川春濤関

関本起泉祭

芳川園松画

初編上の巻

根崎画



凡そ稗史の骨髄たるものの初め善人悪人の為め小窓めくは数々の艱
 難を經て悪人遂に亡び善人幸福を得ると以て常套と為せど、雖も
 其間の轉變一ありて足らぬ其奇を示さんと欲せば人情は遠きるは恐あり
 其異と説のんと為せば時勢は違ふの誅あり故に近世の稗史は
 只其事實を述ぶるに止り興味淡薄るを以て看客を倦しむるもの
 少るるに然るふ今度起泉子が終る所の此稗史の奇を示し、
 能く人情を悉し異外の異を説て時勢の變遷を明かにし、近來の
 珍説をねが讀むに從つて漸く佳境に入り看客をして次編の発売を
 促さしむるに至るの自慢も、小生が今より保証ふ所あり

明治十五年二月

芳川春濤





長州藩士
戸倉信人

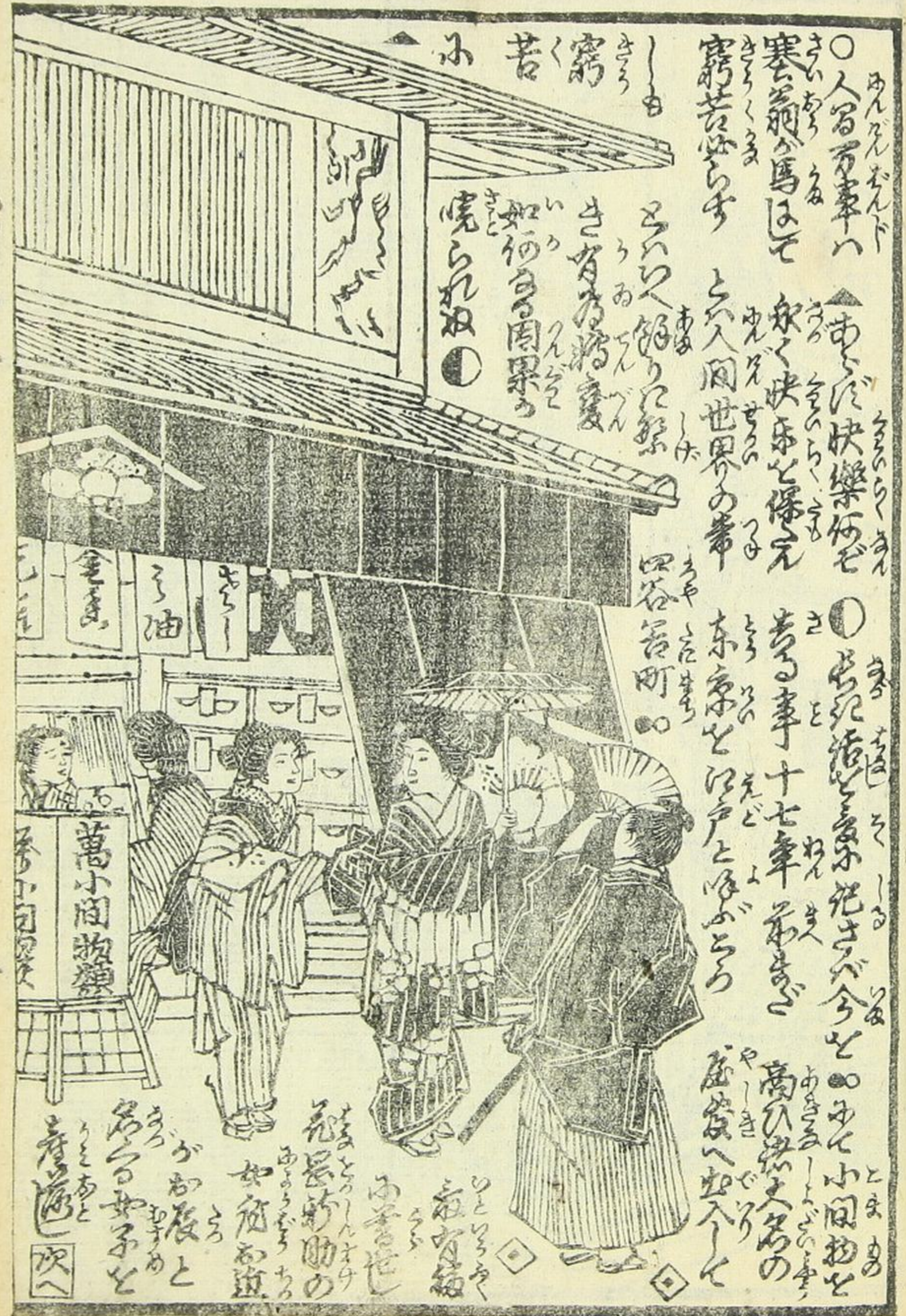


新助の娘
お辰

奸婦
お兼



小間物商
花岡新助

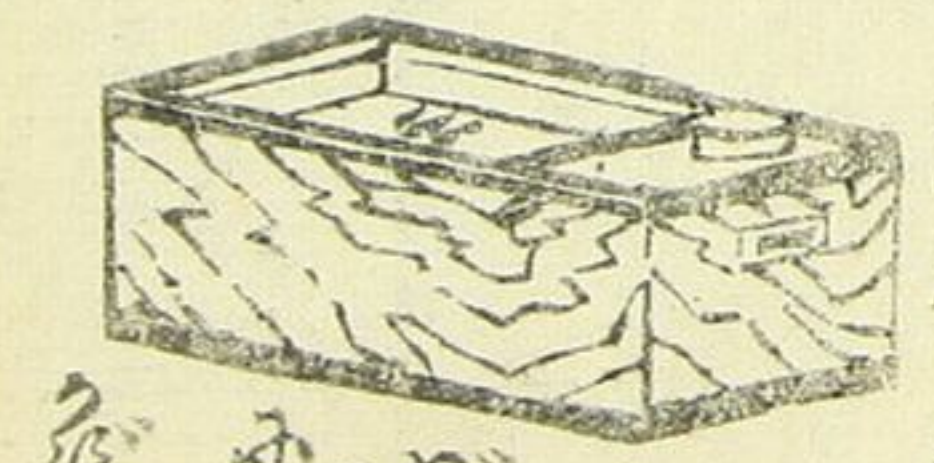
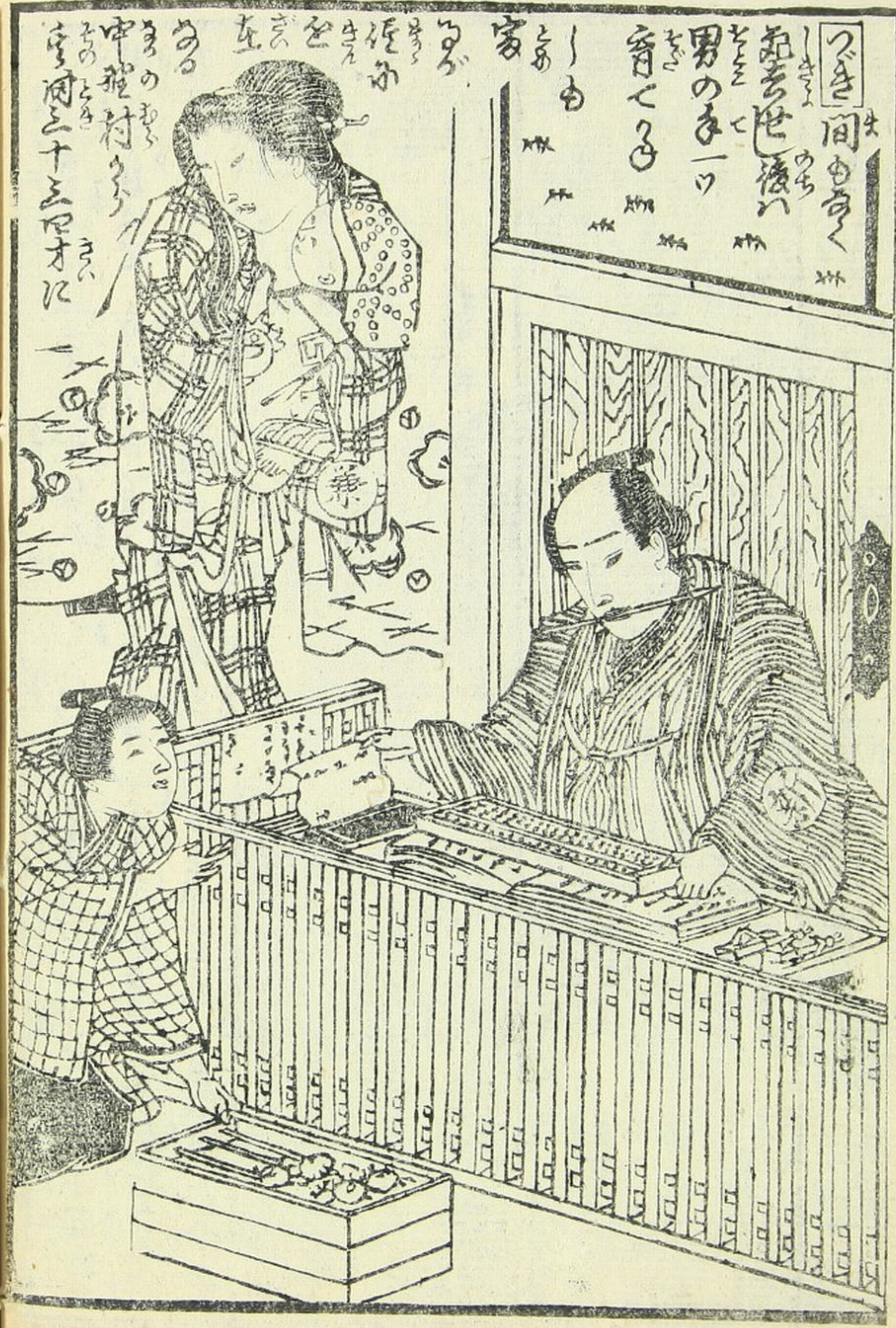


○人習事奉へ
寒前馬はそ
窮苦必らず
○あつた快楽何ぞ
○あつた活と家花さふ今と
○あつた小間物と
高ひ徳文名の
産後へ入へて

○あつた快楽何ぞ
あつた活と家花さふ今と
あつた小間物と
高ひ徳文名の
産後へ入へて

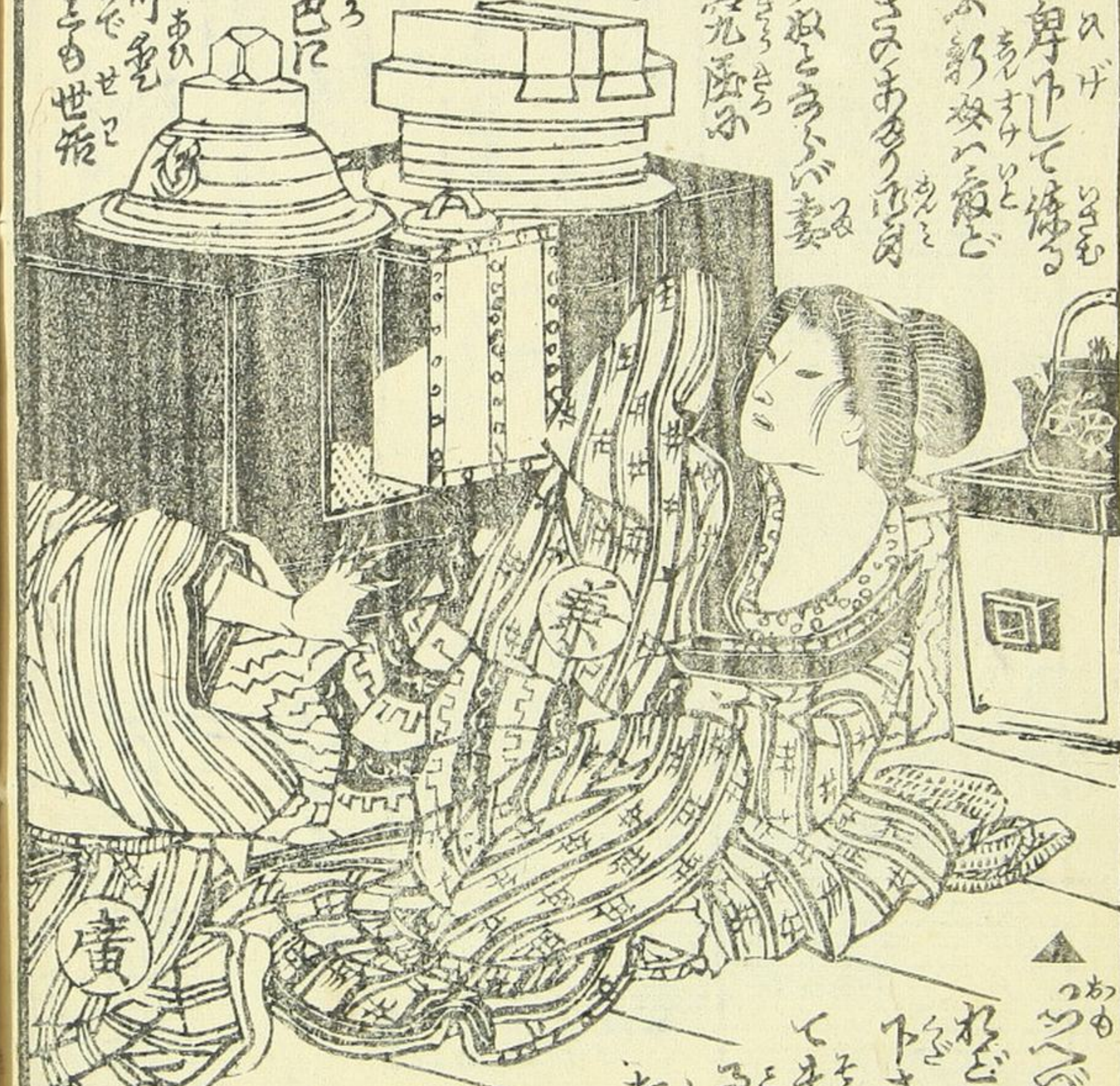
○あつた快楽何ぞ
あつた活と家花さふ今と
あつた小間物と
高ひ徳文名の
産後へ入へて

○あつた快楽何ぞ
あつた活と家花さふ今と
あつた小間物と
高ひ徳文名の
産後へ入へて



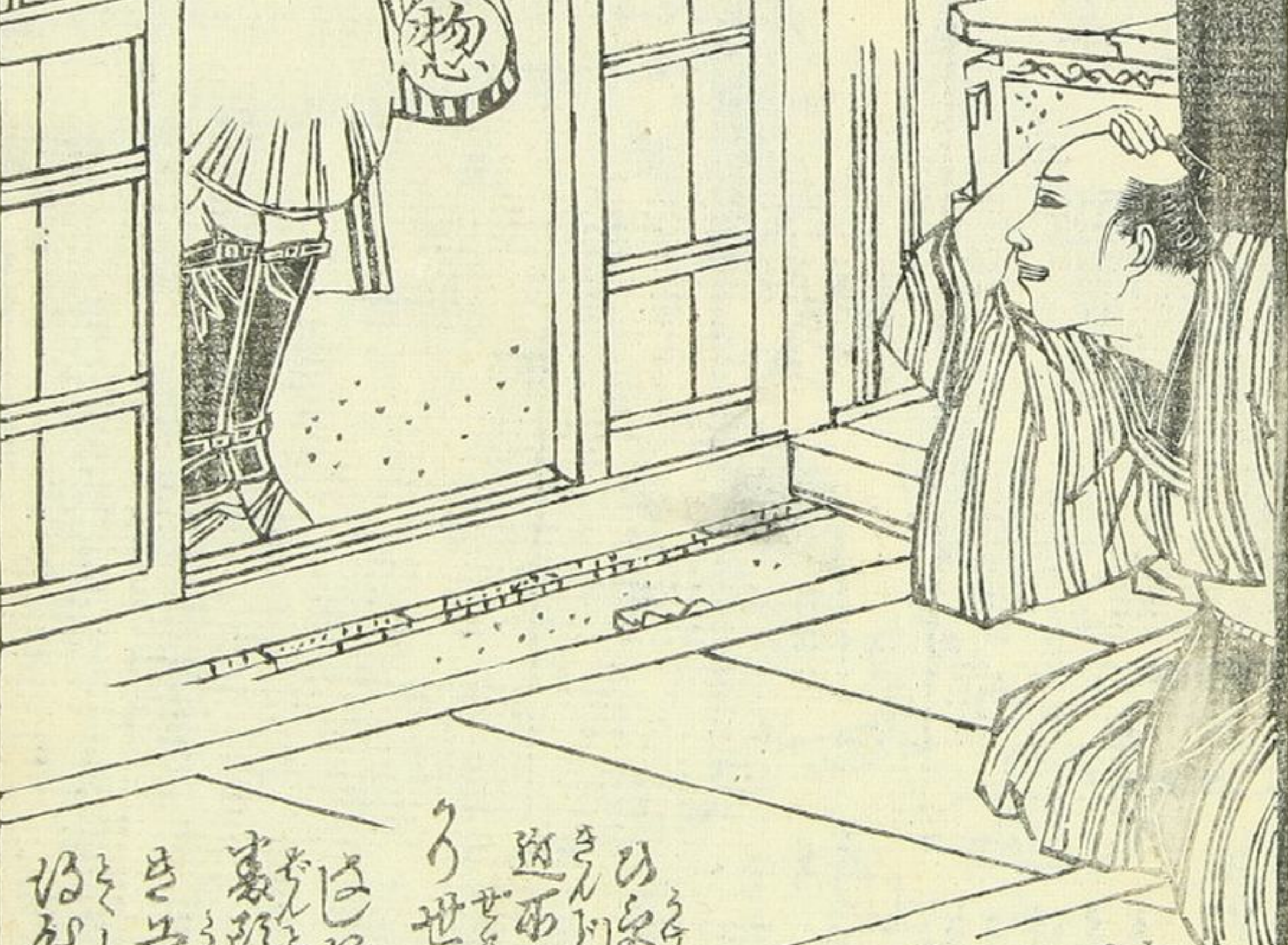
花屋
 申す村々
 三月十五日

ついでに月と舟中して帰る
 と定まるとあるが、新女は、
 遠く暮れしきよあまのついで
 お放浪があらぬとあらふ妻
 にもせんを究極の
 おもひを
 けりへ乳母の
 一と妻の
 高と雨さ
 べしあまの
 願ふとあられ
 な娘お夜ふ可
 あまりあつと世



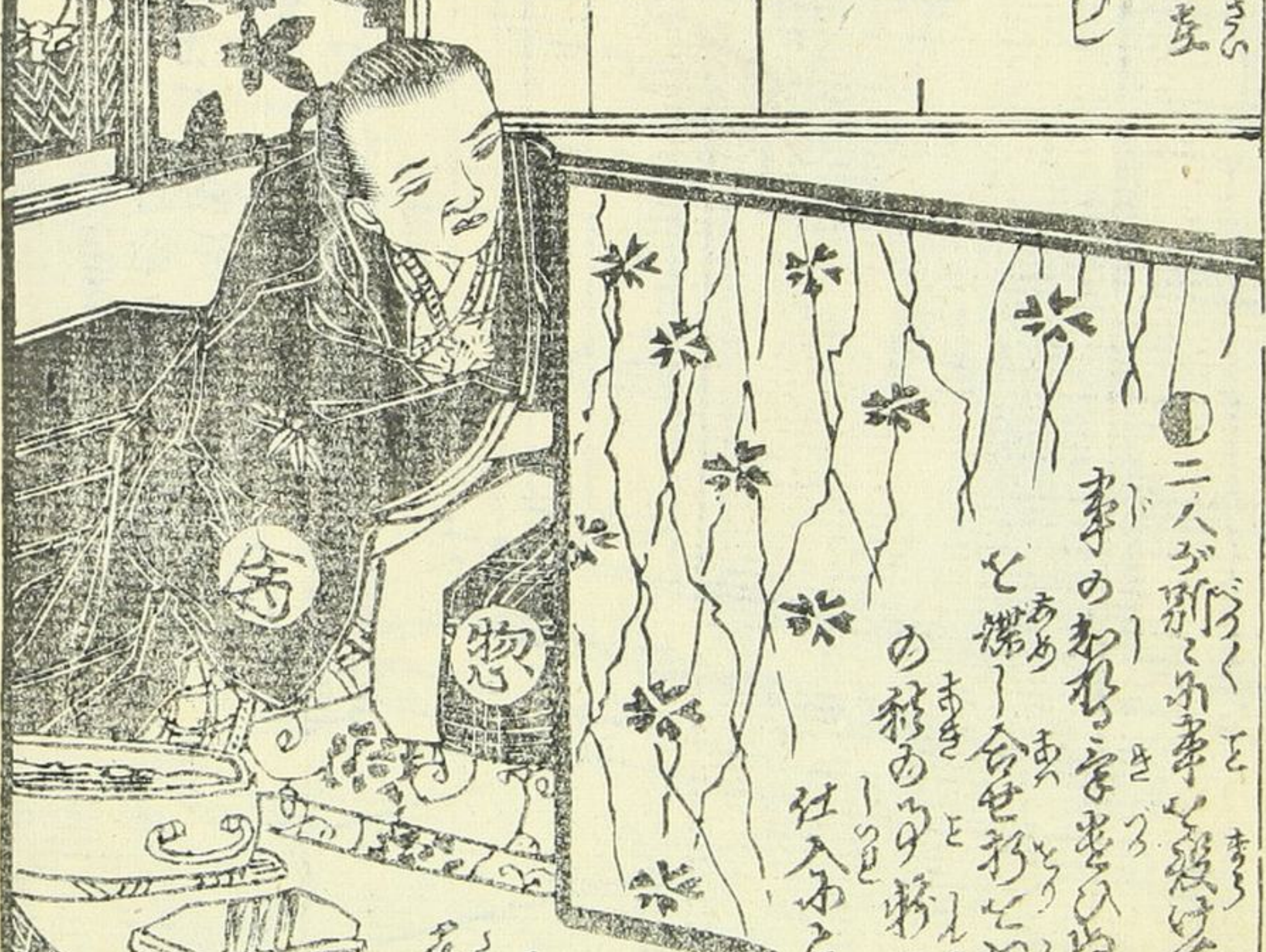
ついでに月と舟中して帰る
 おどお喜ぶして
 下さうとあれ
 てまの娘しての
 りと今更に
 お清し難き
 新助も迷
 ひの雲に
 先と挽の
 色焼火の
 暗きを
 赤ひに
 左程き

と形まんむりあつとま
 波きとと撥は流はあ
 けりああ茶と定あ地何
 あもあに後ひませうが
 あの本と



ついでに月と舟中して帰る
 おどお喜ぶして
 下さうとあれ
 てまの娘しての
 りと今更に
 お清し難き
 新助も迷
 ひの雲に
 先と挽の
 色焼火の
 暗きを
 赤ひに
 左程き

つぎは世にあらがれ
 これが形をかくる
 その女と毎夜主人
 抱膝さむと如しと
 女と此方へ私し
 彼是の女は儲き
 堪へてお尋ね申す
 お尋ねは私もえ
 二人一歩
 逃とあんど
 金と盗ん
 逃とあ



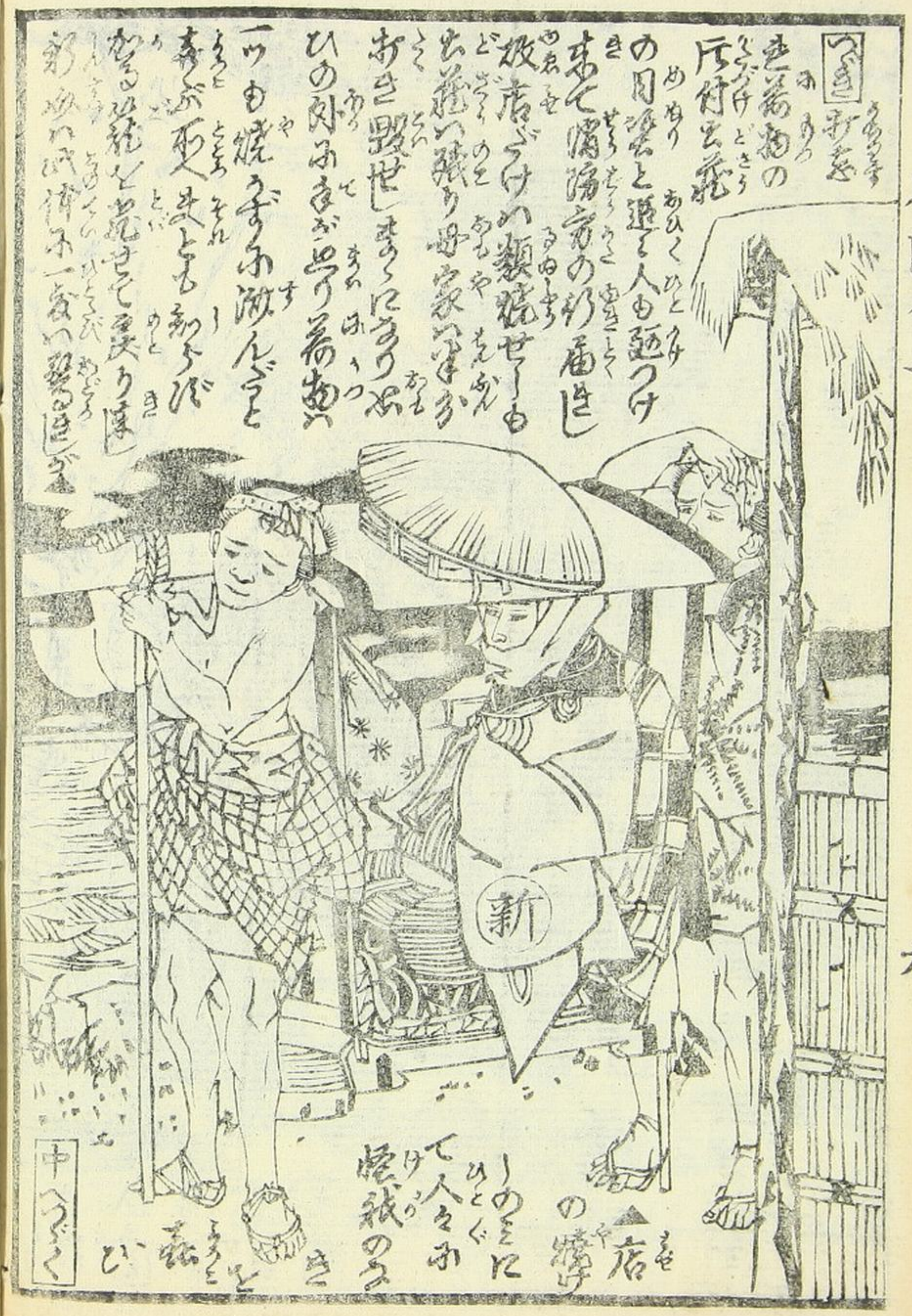
二人が別々
 事のあはれ
 と懐か
 の移り
 仕入
 つい
 とお
 中
 在
 小

せんき
 穿
 蔵
 料
 り
 け
 ろ
 後
 へ



せんき
 穿
 蔵
 料
 り
 け
 ろ
 後
 へ

島年	善惡教訓圖解	善惡推論訓全
鮮重	大日本神社佛閣全	俳優忠臣藏全
堂重	東海道五十三次全	花鳥かざり全
畫周	徳川年代記事全	書簞之図全
帖種	古今名婦傳全	命養生善惡鏡全
折房	花鏡東京名所全	開化東京名所全
本重	八重地本錦繪問屋	島鮮堂
録		網島電吉



善悪推論訓

九





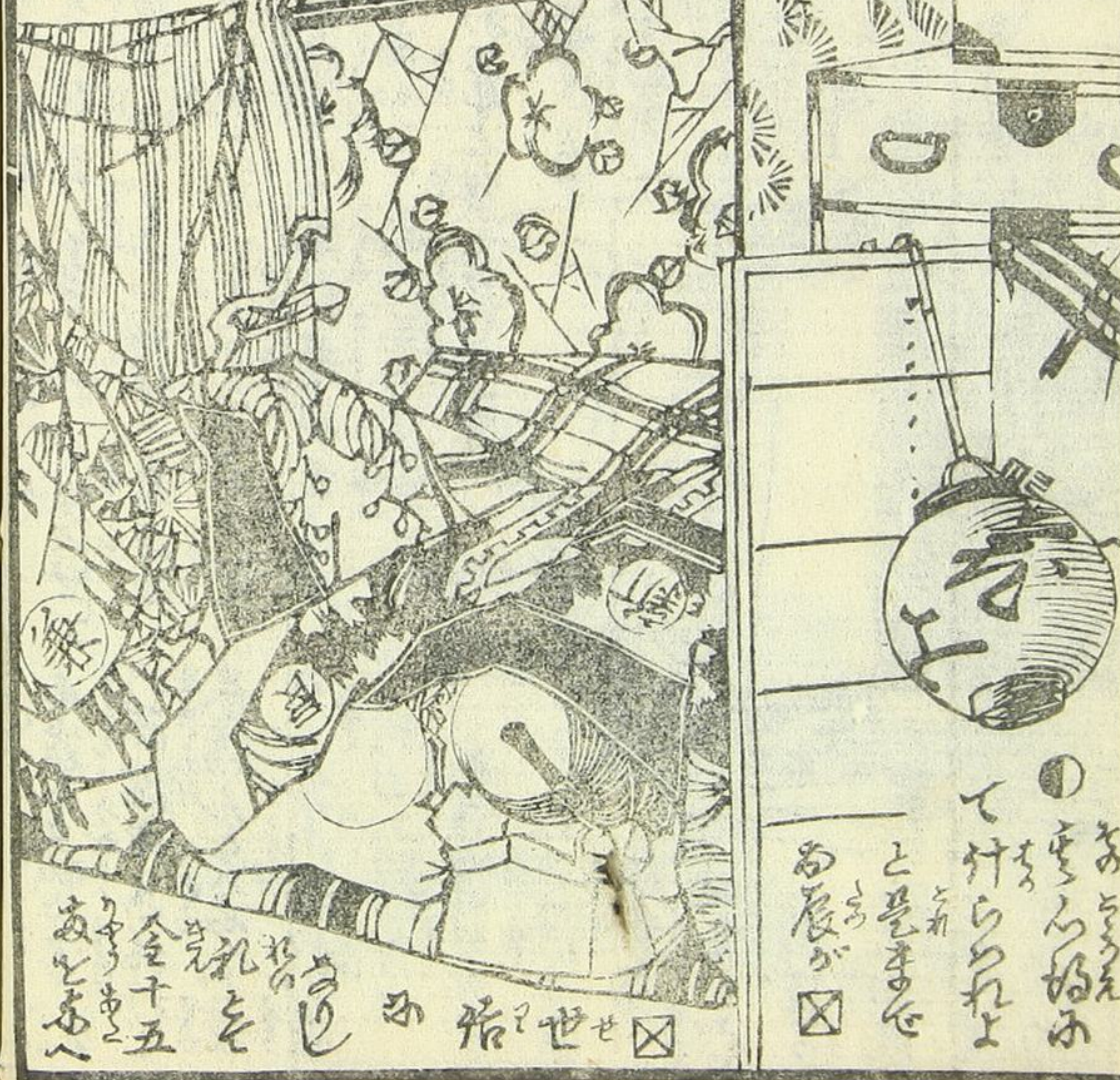
50

55

60

65

ついでに
 利名を為しおれを何ふ
 或年の事かきかたの
 麻呂と考ふ之原風心仕
 切しは常小海である
 後者を密と別ませ
 飯も盛しはまき盛と
 在るの石室ぞと新女が
 眠りあはして何れと今
 二人が共進さるや一対の
 久つと怒りしが身の外
 と拍と揺りおらぬありして
 夜と暗し相立おろくお兼



あつちの
 てけらわれよ
 と是まを
 ち辰が
 せせ
 世
 治
 せ
 世
 全十五
 ありあへ

あま
 が足るまをを何れせま細
 とまげ備ふは細めし唐へ
 あねとまををまへ
 知む時ハ果考二人
 のあもるれば



あつちの
 何れに
 お兼の
 何と今
 ささ
 得るは
 以贈き女と受
 どあやまの
 助が好まは
 勤るは
 うま好んで妹
 妻の存ゆも
 次へ

引越す即ち引越す
引越す即ち引越す
引越す即ち引越す

十五歳の金と交わり
仔細に宅で吐き
お茶を引連は至
お茶を引連は至

初より小落ふ主
多く度者が悪く
の悪形と悪く

は人の事と
好まぬは方の
仕合せ兼ての工
と引越すは悪く

女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの



二人の悪く
と引越すは悪く
引越すは悪く
引越すは悪く

女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの

女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの

女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの

女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの

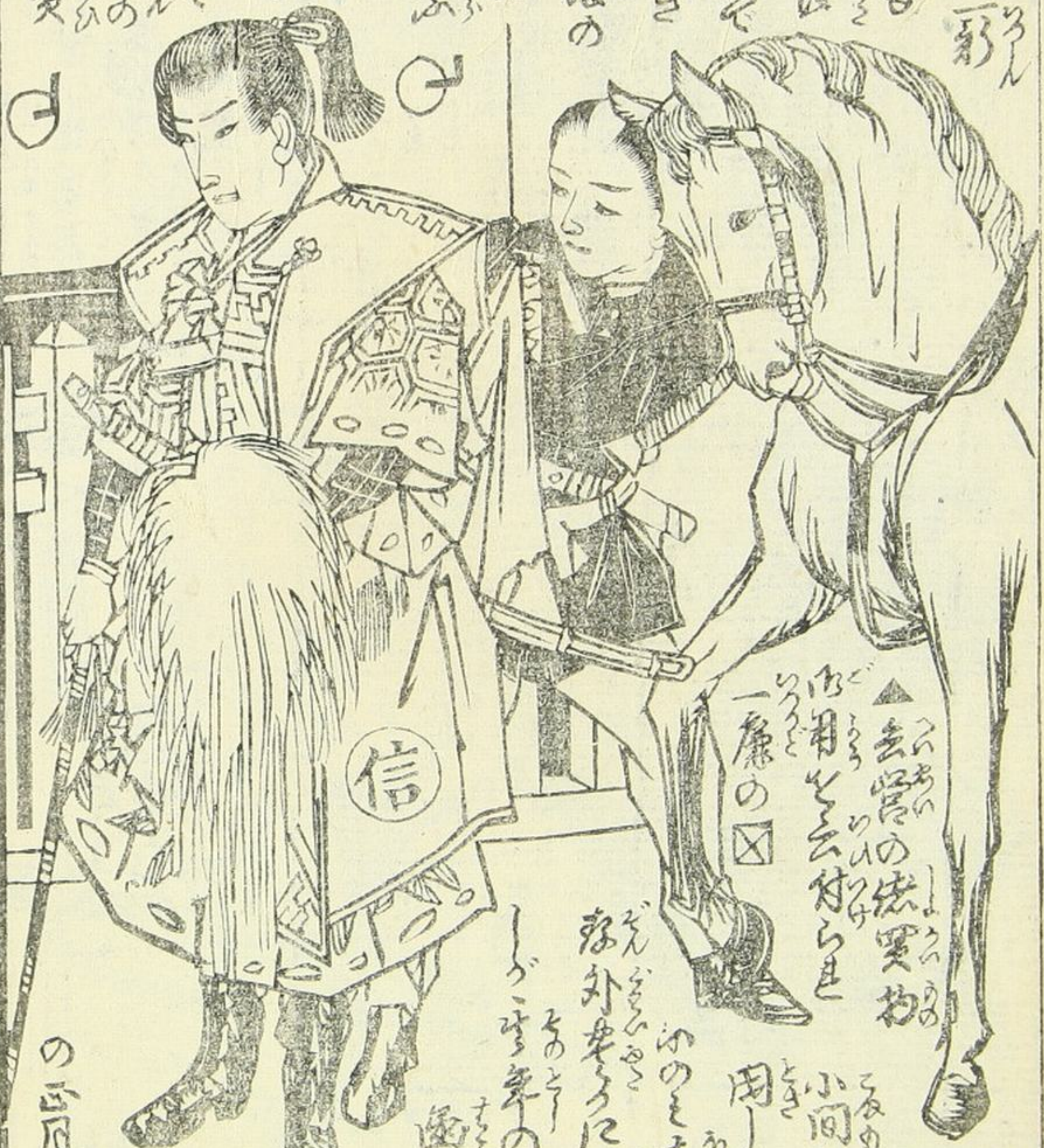
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの



女と一雨小るおの
女と一雨小るおの
女と一雨小るおの

三改一窮

とていふも
東家と改
まの
均志と改
る徳薩の
家申ハ改
てふえへ
ぬりのも
市中あや
由日用あ
外ハ買



△去留の徳實物
内用と云付らま
一廉の□
△利差
あつら
小間物店を
用して
外に
の二月上旬

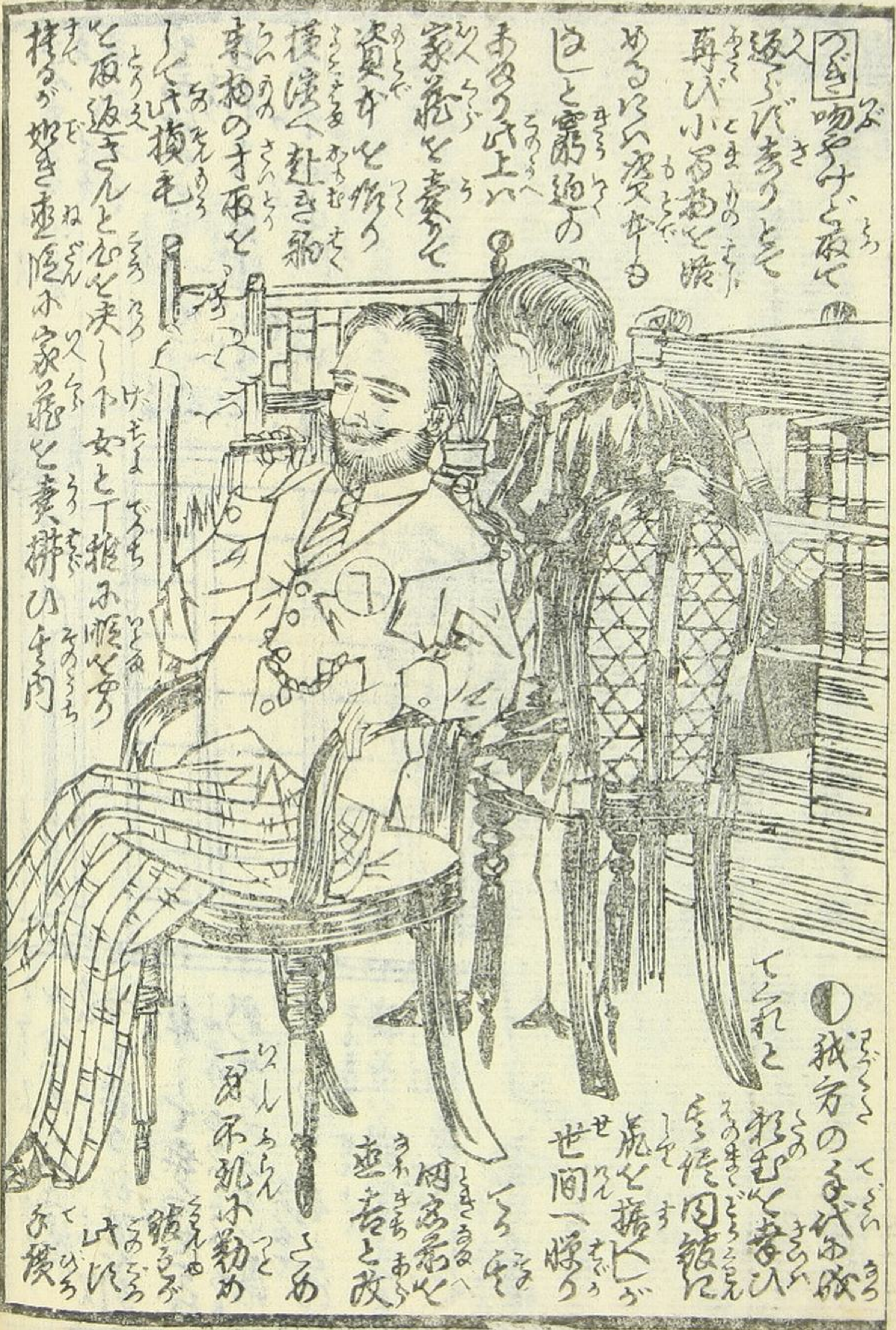
長州藩

さ人由るるるる
孔小文令
とかけく
おねうら
あて下向あり
の隊長
人が



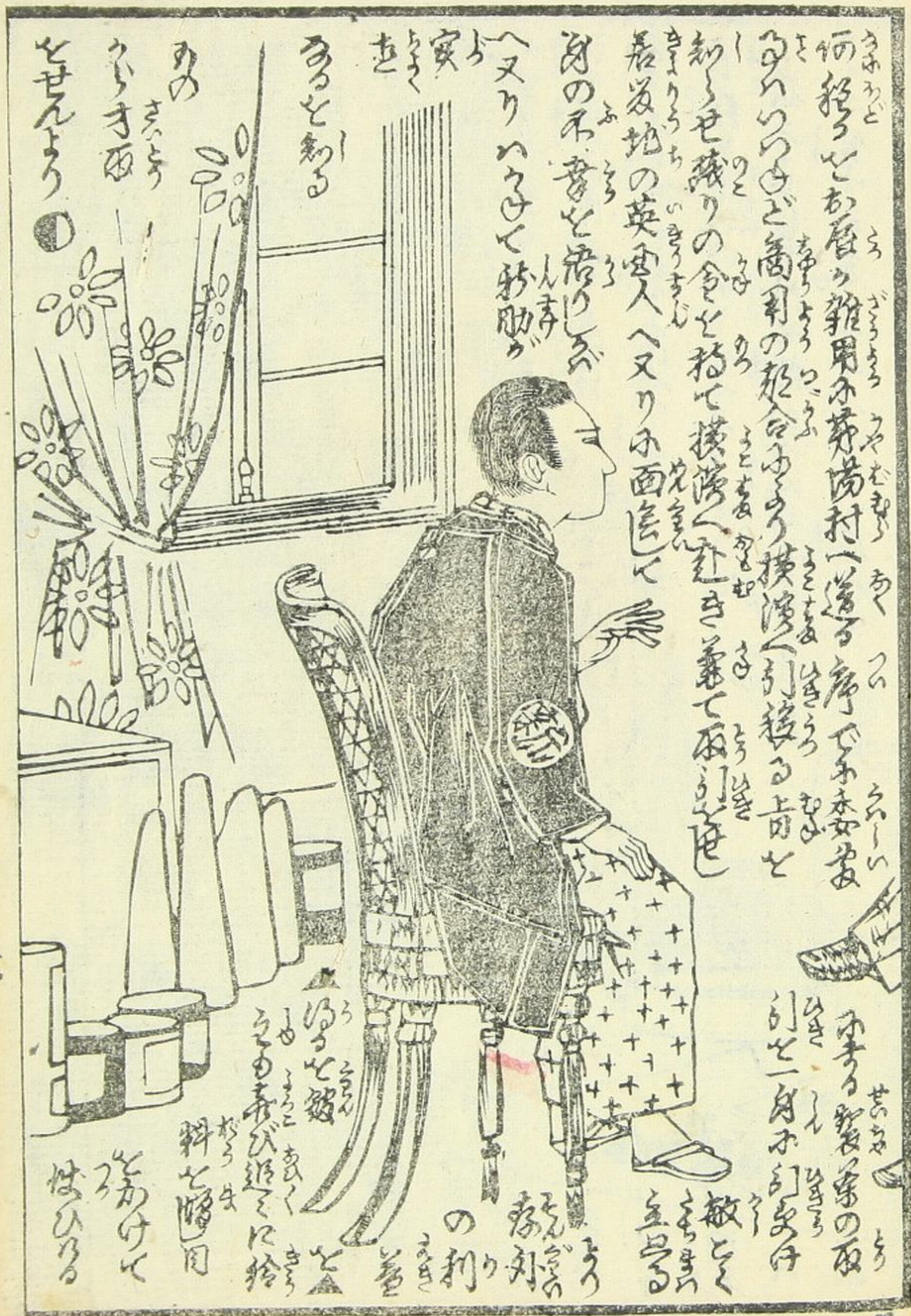
◇地帯と下布
お貸し月十雨の花料
自書共の書

せの
換差と積算する
貸別
今更利
あつら



つぎ 物やけと夜て
 返すばありのとき
 再び小石おとす
 めるはい波又かき
 はと霧迫の
 あめついで上へ
 家務を委す
 資材をたけり
 横濱へ赴き船
 乗船の才取と
 しん換毛
 と返返さんと心を夫し下女と下控小暇せり
 持るが妙き速隠小家務と責掛ひ年内

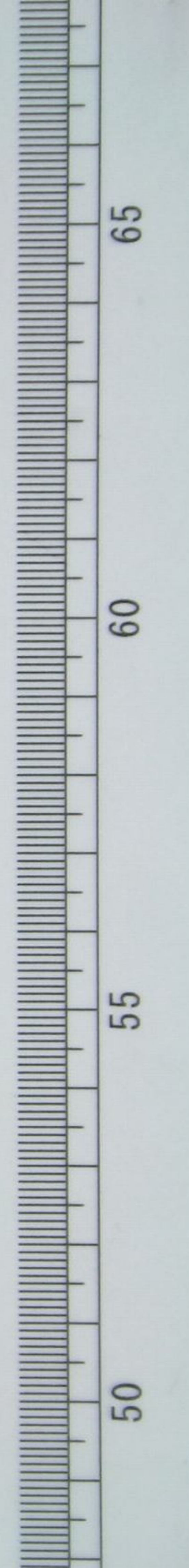
○我方のよび成
 てこれと
 世間一掃り
 虎と揚ぐが
 煙草を成
 遊者と成
 一月不乳小勤め
 一



何程うとお唇う難用小菊湯村一造り序で小委後
 どのののど高利の都合あり横濱へ引移る吉と
 知くせ残りの命を捨て横濱へ赴き兼て返りし
 着る地の英西人へ又り小面直して
 身の不意と危りし
 へ又りへひて秋助が
 実
 走
 ると知る
 の
 くり才取
 とせんよう

小者の髪束の取
 引せ一月小引成り
 敬とく
 主の
 利
 の
 料七階用
 せあけて
 はひるる



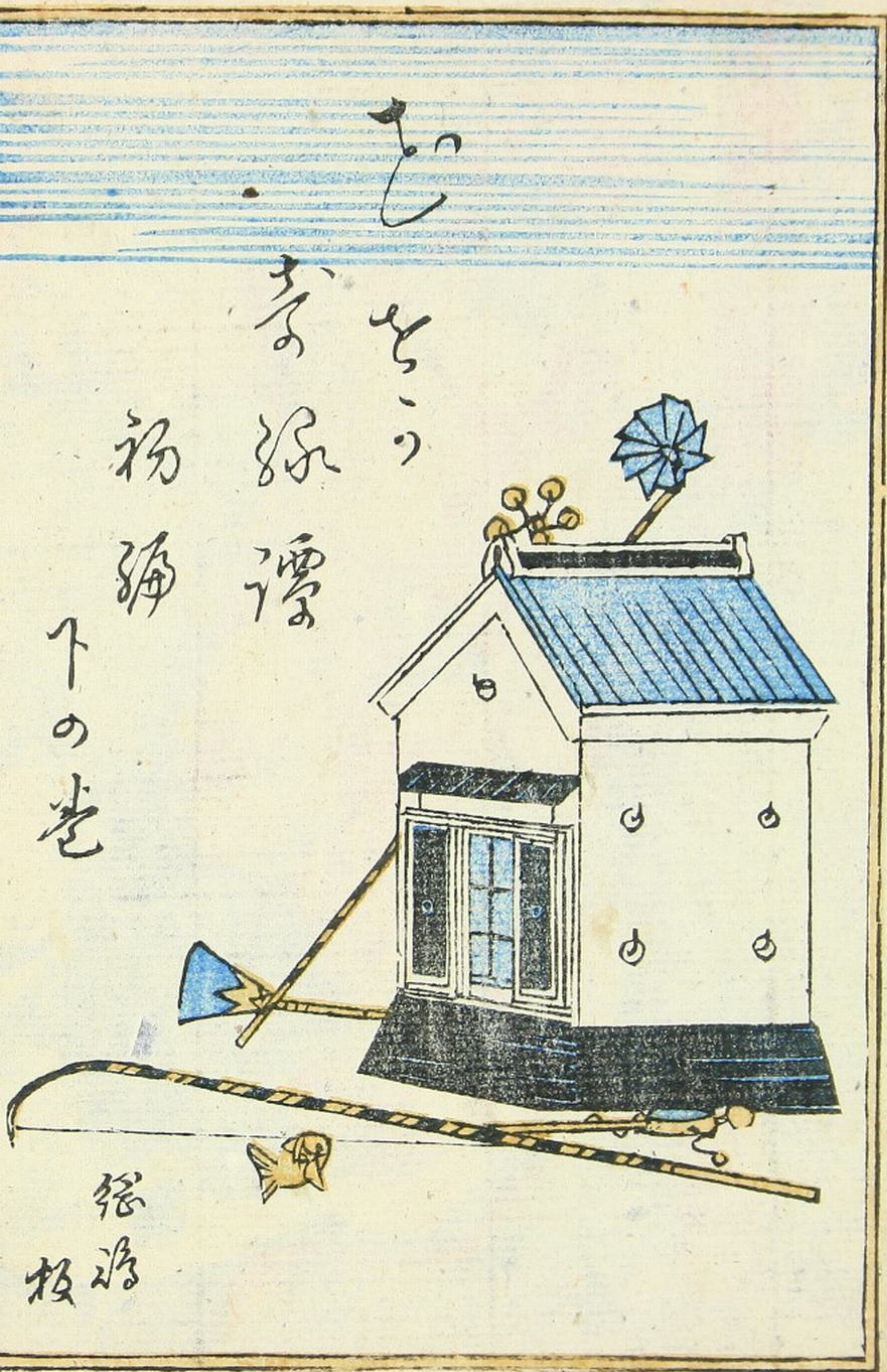


甲の巻より
 後者の人の裾と肩をさし商標の掛
 合と通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ
 法とまふ通に初めくさ之助とまき新く張設ひのり
 ぶれとふ美盤を折檻ささる悲たはは向とまき
 覚とふさ之助の若とまきせびあやうけふふ物さ
 おやうささる情さと面おもをさし入しと
 衣のふれと様さす敏しは若と人整
 木あひ通る物さあまのり
 さを張さるおとあつと初を
 家習を以てふふあつと家
 初後者があつと之れと款のやう小
 扱ふと通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ
 以てと通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ



▲▲▲
 此の巻の
 扱ふと通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ
 以てと通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ
 以てと通るふれは村と村のりあをさし又帳柄ふれ

下の方



お
 初海
 下の巻

張
 板

仕職しとて影の仕方ゆを仕てん母のゆに
 ようして聞ふふまきこれるのなあて骨尾へめつこ
 ろの親ふ兼てのあひをコレしとまふれかると
 ろるはとあかきおのく空を打ちスツテレ
 頼りと後者が作らるに側なるお者
 お愛のあうか関が親をうけ
 惟下や踏しいと之助う空加
 減小まふふのうとゆう付る
 心や実ぞとわだかま
 云んとまると後者が
 痛てあめきへく三文
 助でさう年何のさあちの
 りともる信の扱ふとシヤ



那授まま配入とて
 へせまうと伯母に
 向つてのあめき
 ちれての直者のあ
 てさうとゆふ
 由あむい何か
 にもあつて
 ありはつて
 お者のおれ
 のまて
 せつる
 あるとのあ
 ねい

まもも程あまいとた
 といと
 扱家
 扱のあ
 家と
 おま
 ま
 ひろ
 後者が
 ち
 け
 おま
 さん
 さん
 さ
 ある



さ
 お
 ね
 と
 せ
 と
 女
 へ
 じ
 が
 夜

のさ 衣店を人
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま



のさ 衣店を人
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま

のさ 衣店を人
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま



のさ 衣店を人
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま
 仕りして湯
 おきけらあま
 年の暮ら三月
 新編のあまね
 の物をあまね
 あまねのあま

島	鮮	堂	帖	折	本	長
善惡教訓圖解	大日本神社佛閣全	東海道五十三次全	徳川年代記事全	古今名婦傳全	花鏡東京名所全	龜地本錦繪問屋
善惡相剋全	俳優忠臣藏全	花鳥かぶみ全	寄籠之圖全	命養生善惡鏡全	開化東京名所全	島鮮堂
藤	周	房	周	房	廣	島
島	鮮	堂	帖	折	本	長
善惡教訓圖解	大日本神社佛閣全	東海道五十三次全	徳川年代記事全	古今名婦傳全	花鏡東京名所全	龜地本錦繪問屋
善惡相剋全	俳優忠臣藏全	花鳥かぶみ全	寄籠之圖全	命養生善惡鏡全	開化東京名所全	島鮮堂
藤	周	房	周	房	廣	島

御届明治十五年二月 日
 浅草五町十二番地
 出版人 網島龜吉
 初めは...
 世後の...
 御届明治十五年二月 日
 浅草五町十二番地
 出版人 網島龜吉

